

今までに心に残っている場面



【ベテランスタッフ・アンケート結果第3弾「心に残っている場面」】

最期のステージにかけて、より良い寄り添いができたと感じられたケースが心に残っています。亡くなる数日前まで、食べたい物をお聞きし、スーパーで買って、数口ずつ食べて頂いたケースなど。

ベッドに寝たきりの患者様。手足を動かしても声を掛けても反応がありませんでしたが、ある日、話し掛けた時に声を出して笑ってくれたことが驚くとともに嬉しかったです。

特に、働き始めて3年目までに担当した患者さまの中に印象深い方がたくさんいます。患者さまやご家族から相談されたり感激されたりしたことが、「セラピストとして成長しなくては！」という原動力になりました。また、師長に全力で怒られたこともよく覚えています。今では良い思い出です。

高齢の患者さまが難しいくす玉の折り紙を作れるようになった時、「高齢でも技術を学んでできるようになるんだ！」と感動しました。また、作業療法の時間以外でも入院生活に取り入れ、自律的に生活されるようになりました。